化学・繊維

1. 評価対象企業（19社）

帝人、東レ、クラレ、旭化成、昭和電工、住友化学、日産化学、東ソー、信越化学工業、エア・ウォーター、日本酸素ホールディングス（注）、カネカ、三井化学、JSR、三菱ケミカルホールディングス、ダイセル、積水化学工業、宇部興産、日本ペイントホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）大陽日酸が商号を変更（持株会社体制へ移行）した（2020年10月）。

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	5	31
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	3	12
計		20	100

（注）評価項目の内容および配点は29頁参照

(2) 評価実施アナリストは27名（所属先23社）である。（30頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（28頁）参照）

- ① 本年度は、経営陣のIR姿勢等およびフェア・ディスクロージャーにおいて、項目の削除または追加を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は68.7点（昨年度70.1点）、総合評価点の標準偏差は9.2点（昨年度9.3点）となった。
- ② 評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣のIR姿勢等が71%（昨年度73%）、説明会等が70%（昨年度71%）、フェア・ディスクロージャーが68%（昨年度67%）、コーポレート・ガバナンス関連が66%（昨年度69%）、自主的な情報開示が63%（昨年度65%）となり、各分野共に昨年度と同水準となった。
- ③ 評価項目について見ると、昨年度は平均得点率75%以上の項目が3項目あったが、本年度はなく、最も高い平均得点率（74%）となったのは、次の2項目（経営陣のIR姿勢等の中の1項目(a)とフェア・ディスクロージャーの中の1項目(b)）であった。

(a) 「経営トップが説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていますか」（平均得点率74%〔昨年度同率〕）（得点率：80%台6社・70%台8社・60%台4社・50%台1社）

- (b) 「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率 74% [昨年度 75%]）（得点率：80% 台 3 社・70% 台 14 社・60% 台 1 社・50% 台 1 社）

④ 一方、昨年度平均得点率が 65% 以下の項目は 3 項目あったが、本年度は次の 5 項目となった。

- (c) 「説明会または電話会議のリプレイ（質疑応答、議事録を含む）は速やかに電話やウェブキャストで視聴等ができますか」（平均得点率 56% [昨年度 48%]）（得点率：0% 1 社・30% 台 7 社・60% 台 8 社・100% 3 社）
- (d) 「工場見学、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか」（平均得点率 60% [昨年度 63%]）（得点率：30% 台 2 社・40% 台 2 社・50% 台 5 社・60% 台 4 社・70% 台 5 社・80% 1 社）
- (e) 「ウェブサイトを利用して説明会資料等（質疑応答、議事録を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 63%）（得点率：0% 2 社・50% 10 社・100% 7 社）
- (f) 「資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか」（平均得点率 64% [昨年度同率]）（得点率：40% 台 2 社・50% 台 5 社・60% 台 6 社・70% 台 4 社・80% 台 1 社・90% 台 1 社）
- (g) 「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか」（平均得点率 65% [昨年度 73%]）（得点率：20% 台 1 社・30% 台 1 社・50% 台 3 社・60% 台 6 社・70% 台 3 社・80% 台 4 社・90% 1 社）

⑤ 非財務情報に関連する次の項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目）は、平均得点率が昨年度に比べわずかに低下した。

- ・ 「非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 68% [昨年度 70%]）（得点率：50% 台 7 社・60% 台 3 社・70% 台 5 社・80% 台 1 社・90% 台 3 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 日産化学（ディスクロージャー優良企業 [初受賞]、総合評価点 85.5 点 [昨年度比 +3.9 点]、昨年度第 3 位）

- ① 同社（評価対象として本年度が 2 回目）は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉87%）、**説明会**（91%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（89%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**が第 3 位（81%）、**自主的情報開示**が第 8 位（68%）となった。昨年度に比べ、**コーポレート・ガバナンス関連**を除く 4 分野の得点率が改善した結果、総合評価点の上昇（上昇幅は第 2 位）および順位の上昇（上昇幅は第 3 位）につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR の重要性の認識、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等も含め、全体としての経営陣の IR 姿勢」、「IR 部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積され、IR 担当者とは有益なディスカッションができること」および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」が共に極めて高い評価となった。また、「経営トップが説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていること」も評価された。これらに関し、市場がリスク視している点を把握し、軽減させようとする同社の姿勢を評価するとの声や、投資家・アナリストとの有益なコミュニケーションにつながる質の高い IR 活動との声が寄せられた。なお、「非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」については、第 6 位（トップと 18 ポイント差）にとどまった。
- ③ **説明会等**においては、全 5 項目にわたり、第 1 位となり、第 2 位以下に得点率で 10 ポイント近くの差をつけた。これに関し、投資家の関心事を踏まえた資料内容を評価する声、充実したデータと継続性、インタビューでの説明を評価する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っている」ことがトップとなった。また、「ウェブサイトを利用した説明会資料等（質疑応答、議事録を含む）の日英両言語によるタイムリ

一な提供」についても満点評価となった。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」、「重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていること」、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていること」および「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」が共に単独または同得点第1位となった。これらに関し、明示したキャッシュマネジメントと資本効率目標・還元方針を評価する声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実している」ことについては、第6位（トップと9ポイント差）にとどまった。これに関し、「ラウンドアップの現状説明会」を評価する声が寄せられた。また、「ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書、統合報告書等の内容が充実していること」については、第5位（トップと27ポイント差）にとどまった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 積水化学工業（総合評価点81.5点〔昨年度比+3.2点〕、昨年度第5位）

- ① 同社は、**説明会等**（82%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（84%）が第2位、**経営陣のIR姿勢等**が第3位（84%）、**フェア・ディスクロージャー**が第4位（80%）、**自主的情報開示**が第5位（74%）となった。昨年度に比べ、全ての分野の得点率が改善した結果、総合評価点の上昇（上昇幅は第3位）および順位の上昇（上昇幅は第2位）につながった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が極めて高い評価となった。また、「IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等も含め、全体としての経営陣のIR姿勢」、「経営トップが説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていること」、「IR部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積され、IR担当者とは有益なディスカッションができること」および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」も共に評価された。これらに関し、経営計画説明会等におけるカンパニープレジデントによる部門ごとの説明を評価する声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていること」が高い評価となった。また、「決算説明会における説明が十分であること」、「インタビューにおける補足説明が十分であること」、「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できること」および「説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていること」も共に評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っている」ことが評価された。また、「ウェブサイトを利用した説明会資料等（質疑応答、議事録を含む）の日英両言語によるタイムリーな提供」についても満点評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」、「重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていること」、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていること」および「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」が共に評価された。これらに関し、財務目標等の説明に加え、ベータを引き下げる経営について言及している点を評価する声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書、統合報告書等の内容が充実していること」が高い評価となった。なお、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実している」ことについては、第8位（トップと13ポイント差）にとどまった。

第3位 三井化学（総合評価点 81.2点〔昨年度比－4.2点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第2位（87%）、自主的情報開示が同得点第2位（77%）、説明会等が第3位（80%）、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第3位（78%）、フェア・ディスクロージャーが第5位（79%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR の重要性の認識、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等も含め、全体としての経営陣の IR 姿勢」、「経営トップが説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていること」および「非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が共に高く評価された。また、「IR 部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積され、IR 担当者と有益なディスカッションができること」および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」も共に評価された。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における説明が十分であること」、「インタビューにおける補足説明が十分であること」、「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できること」、「説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていること」および「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていること」が共に評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」がトップと僅差の同得点第4位となった。また、「ウェブサイトを利用した説明会資料等の日英両言語によるタイムリーな提供」についても満点評価となった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」、「重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていること」、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていること」および「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」が共に評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書、統合報告書等の内容が充実していること」が評価された。また、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」については、同得点第4位（トップと7ポイント差）となった。
- ⑦ 以上に加え、新型コロナウイルス関連の影響を経営戦略に反映させようとする柔軟な姿勢が感じられると評価する声が寄せられた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 日本ペイントホールディングス（総合評価点 66.2点〔昨年度比＋8.8点〕、第12位〔昨年度第20位〕

- ① 同社は（評価対象として本年度が3回目）、昨年度に比べ、総合評価点が上昇（上昇幅は第1位）し、順位の上昇（8ランクアップ）につながった。具体的には、フェア・ディスクロージャーが第2位（84%）、説明会等が第9位（71%）、経営陣の IR 姿勢等が第12位（67%）となり、説明会等とフェア・ディスクロージャーが大幅に改善した。
- ② 上記に関し、経営体制の変更により、IR 姿勢が大幅に改善したとの声や、特殊要因を除いた実質ベースの開示など説明会資料が改善したとの声が寄せられた。

以上

2020年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (化学・繊維)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目5 (配点31点)	順位	評価項目5 (配点32点)	順位	評価項目3 (配点12点)	順位	評価項目4 (配点13点)	順位	評価項目3 (配点12点)	順位	
1	4021 日産化学	85.5	27.0	1	29.1	1	9.7	3	11.6	1	8.1	8	3
2	4204 積水化学工業	81.5	26.0	3	26.1	2	9.6	4	10.9	2	8.9	5	5
3	4183 三井化学	81.2	26.9	2	25.5	3	9.5	5	10.1	3	9.2	2	1
4	4005 住友化学	77.1	24.9	4	24.4	4	8.2	11	9.3	6	10.3	1	2
5	3407 旭化成	77.0	23.7	6	23.6	8	10.5	1	10.1	3	9.1	4	4
6	4208 宇部興産	75.1	24.2	5	24.0	6	8.6	8	9.8	5	8.5	7	7
7	4188 三菱ケミカルホールディングス	72.8	23.5	7	22.5	10	8.5	9	9.1	7	9.2	2	8
8	4004 昭和電工	69.3	23.2	8	24.1	5	7.1	13	7.8	14	7.1	12	6
9	3401 帝人	68.6	21.9	9	21.5	13	9.1	6	8.7	9	7.4	11	10
10	4185 JSR	67.2	21.9	9	23.8	7	6.3	16	9.1	7	6.1	16	9
11	4091 日本酸素ホールディングス	66.5	21.1	11	21.8	11	9.1	6	8.4	10	6.1	16	12
12	4612 日本ペイントホールディングス	66.2	20.9	12	22.8	9	10.1	2	7.6	15	4.8	19	20
13	4042 東ソー	63.1	20.5	14	21.6	12	6.0	18	7.4	17	7.6	9	11
14	4063 信越化学工業	63.0	20.8	13	20.1	16	8.3	10	6.2	18	7.6	9	15
15	3402 東レ	61.6	18.7	17	19.6	17	6.9	15	7.6	15	8.8	6	14
16	4202 ダイセル	61.0	20.4	15	20.3	15	7.1	13	8.2	11	5.0	18	13
17	4088 エア・ウォーター	60.6	19.9	16	20.4	14	5.9	19	7.9	12	6.5	14	16
18	3405 クラレ	56.6	17.5	18	18.6	18	6.1	17	7.9	12	6.5	14	18
19	4118 カネカ	50.7	15.4	19	15.0	19	7.5	12	5.9	19	6.9	13	19
	評価対象企業評価平均点	68.65	22.02		22.36		8.10		8.61		7.56		

2020年度評価項目および配点(化学・繊維)
【評価対象期間:2019年7月～2020年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (31点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。(IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)	8
②経営トップが説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていますか。	8
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	8
(3)IRの基本スタンス	
①非財務情報(ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか。	4
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (32点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	8
②インタビューにおける補足説明は十分ですか。	8
(2)説明資料等(短信・添付資料および補足資料を含む)における開示	
①決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が、T Dnet経由またはウェブサイトで見取れますか。	5
②説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。	8
(3)四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー (12点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示(メディア対応も含む)に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	7
(2)説明会または電話会議のリプレイ	
・説明会または電話会議のリプレイ(質疑応答、議事録を含む)は、速やかに電話やウェブキャストで視聴等ができますか。	3
(3)投資家向け情報提供	
・ウェブサイトを利用して説明会資料等(質疑応答、議事録を含む)を日英両言語でタイムリーに提供していますか。 [0点～2点の整数で評価]	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (13点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。	2
(2)目標とする経営指標等	
①重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	3
②中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。	3
(3)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (12点)	配点
①工場見学、事業部説明会、技術説明会等(アナリスト主催を含む)を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	7
②ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書、統合報告書等の内容は充実していますか。	3
③開示された公開情報について、E-mail等を利用して能動的かつ適切に周知していますか。	2

化学・繊維専門部会委員

部会長	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	山田 幹也	みずほ証券
	岡寄 茂樹	野村証券
	木村 光宏	野村アセットマネジメント
	澤砥 正美	SBI 証券
	野口 英彦	アセットマネジメント One
	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント

評価実施アナリスト（27名）

板倉 充知	SOMPOアセットマネジメント	中原 周一	東海東京調査センター
伊藤 健悟	QUICK	西平 孝	岡三証券
今津 拓洋	アセットマネジメント One	西脇 秀敏	三菱UFJ信託銀行
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	野口 英彦	アセットマネジメント One
岡寄 茂樹	野村証券	福島 大輔	野村証券
岡田 真一	三菱UFJ信託銀行	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
河井 啓朗	明治安田アセットマネジメント	宮本 剛	UBS証券
木村 光宏	野村アセットマネジメント	森 知勝	富国生命保険
齋藤 達哉	三井住友DSアセットマネジメント	矢倉 賢範	東京海上アセットマネジメント
澤砥 正美	SBI証券	山田 幹也	みずほ証券
鈴木 洋平	富国生命投資顧問	吉田 篤	みずほ証券
高橋 豊	極東証券経済研究所	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント
竹内 忍	SMBC日興証券	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
坪井 暁	ニッセイアセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。